平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	農業振興課
6 ※記入不要		

要望問題
落花生の機械化一貫栽培体系の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

落花生は、本件は畑作物の基幹土地利用型作物であると共に、「神奈川ブランド」に指定されている重要な作物である。しかし、担い手の高齢化や鳥獣被害等により、作付け面積は年々減少傾向にある。「神奈川ブランド」の位置づけを確保することはもとより、畑作の連作障害や遊休化を回避し効率的な栽培・作付け体系を維持するためにも、必要不可欠な作物である。
こうした状況を受け、生産現場で問題となっている、次の作業について、中型機械の開発もしくは改良をお願いしたい。
①種子莢剥きの機械：現在の機械では種子として使用できる割合が低すぎ、最低でも９５％以上の発芽率を確保するための開発・改良
②マルチ・播種同時作業機：現在の播種機で種子の発芽率が低下する現象を改善し、マルチ作業と同時作業ができる播種精度に改善する
③収穫・乾燥機：現在の機械は、掘り取り・乾燥後脱莢であるが、乾燥中の鳥獣害や脱莢時の粉塵被害、脱莢後の地上部の処理問題があり、生で脱莢し火力等により乾燥させると共に地上部を飼料用等に活用する技術の開発
④機械化した場合の作業労働改善程度、並びに労働・作業改善に伴う経済性の整理

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：生産技術部	
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	（①、②、④の場合）

対応の内容等
要望①　アワ、ヒエ、ヒマワリ、落花生等雑穀用皮剥機が市販されています。主産県の状況や既存の機械に関する試験結果など、情報を収集し提供します。
要望②　市販のリンクベルト式マルチ同時播種機を用い、選別して大きさを揃えた種子を使用することにより実用レベルの播種精度が得られるという試験結果がありますので参考にして下さい。（平成２年度経済試験科成績概要）しかし、何種類かの播種方式がありますので、主産県の状況や他の試験結果など、情報を収集し提供します。
要望③④　収穫関連機械として掘取機、脱莢機、調製機等が既に市販されています。ご要望の新作業体系においても市販機械を組み合わせた利用が可能と思われますので、現地で新体系の導入を検討する際に、適応性、作業性等の調査に協力します。また、市販機械で問題がある場合には課題化について検討します。飼料用としての活用については、関係情報を収集し提供します。
なお、主産県では、新体系によると食味に多少問題があるという情報がありますので、関係情報を収集し提供します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	